

中島桑雄著「珈琲日和」足利文林会秋号 73 足利文林会 2010年10月28日刊を読む

珈琲日和

永かったサラリーマン生活が終わり
さあ これからは「晴耕雨読」
夢に見た田園に閑居する生活
なのに いま 街の喫茶店で
独り珈琲を飲んでいる

空気は湿っている
ピアノはアンドレ・ギャニオン
噴きあがるサイフォンは
過ぎし日々を 思い出させ
満ち足りた気持ちにさせてくれる

こんなに美味しい珈琲は初めてだ
時間をもてあましていないわけではない
過去を懐かしんでいるのでもない
ただ自分の冒険と闘いの時間を
いまようやく実感し 感得している

カウンター越し ガラスに映る自分は
まるで ヘミングウェイの「老人と海」
けっこう、様になっている
熱いガテマラが喉を通過すると
なぜかまた 心と体が熱くなる

P29

[コメント]

地元足利が誇る季刊文芸誌、足利文林を主宰する中島桑雄氏の人生論。LOHAS、Life of Happiness and Quality、質の高い人生とはこのような生き方であるのではと思わせる詩。珈琲好きの私にとっての理想郷。

- 2010年10月28日林 明夫記 -